

令和3年度厚生労働省補助金事業 看護業務効率化先進事例収集・周知事業

看護業務の効率化 2021 先進事例アワード





社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院

新型コロナウイルス感染症クラスター下での看護記録革命!~スマホ活用で問題解決~

社会医療法人 柏葉会

柏葉脳神経外科病院



信頼と尊敬の医療

病床数 144床

職員数 372名

うち看護職員数 123名

入院基本料 急性期一般入院基本料 I

1 看護帳票の記録

▶看護帳票を印刷し、それを持ってラウンド。 得た患者の情報や観察記録を書き込み。その 後、電子カルテに入力するという運用だった。

院内ICTの試験導入※2020年1月

スマートフォンを用いた音声入力システムの試験導入

- ・スマートフォンで電子カルテ情報の一部が閲覧可能
- ・院内無線環境・システム整備
- 紙運用への慣れ
 - 患者の目の前で声に出して記録することに対する抵抗感
 - ▶院内での浸透が難しい

2 | 新型コロナウイルス感染症の院内拡大

(1)新型コロナウイルス感染症 院内発生 ※2021年5月11日

物理的封じ込めの実施 レッドゾーンからの一切の持ち出しが厳禁 ▶ 紙 (看護帳票) 運用が不可に

該当病室の隔離・ゾーニング・PPE着用

- ・個室内に電子カルテ用ノートPCの設置
- ・個室用PDA端末:患者情報の把握・入力が可能
- (2)院内感染拡大 クラスター化 ※2021年5月中旬

病棟全部屋(SCU含む16部屋)・病室ごとの隔離

- ・病室内で暗記してナースステーションで記録
- ・レッドゾーンの内側から窓にメモを貼り確認

感染対策の観点から病室内の滞在時間に制限を設ける

- ▶時間内でケアの提供や看護記録を行う
- ▶処理しきれない場合はナースステーションで記入

▶ ノートPCの不足→発生初期の対応が困難に

曖昧な記憶の確認:ゾーン間の往復が頻発 看護帳票を2部印刷して使用

感染リスク・コスト(PPE・コピー用紙 等)の増加 ▶ 看護帳票を携帯せず看護記録を行う方法の模索

1 看護記録に関する看護師の身体的・精神的負担軽減

〇PPE着脱および感染リスクに伴う身体的・精神的負担の軽減

2 | 看護記録の時間短縮

○スマートフォンの活用によるナースステーションでの記録時間の削減

3 | 感染拡大リスクを最小限に

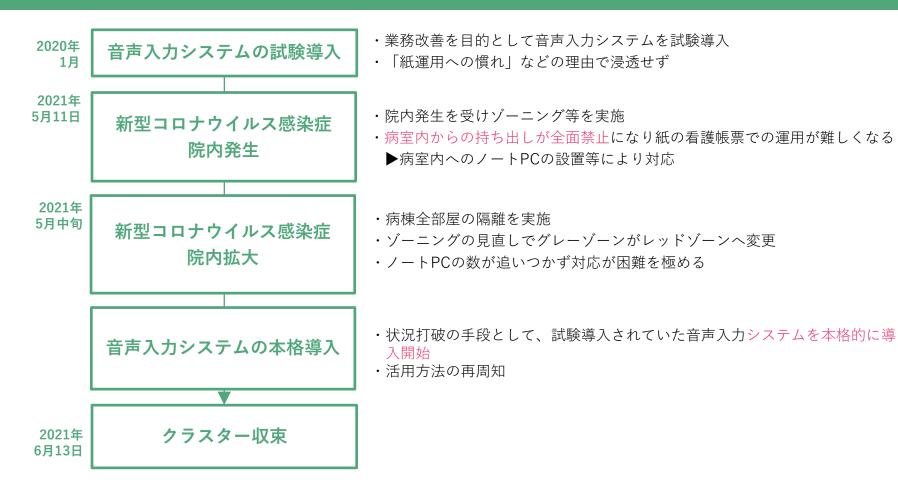
○ゾーン間の往来の減少 ・ 病室内での記録業務の短縮

取り組み内容

┃上記の目標達成のため、以下の取り組みを実施

スマートフォンを用いた音声入力システムの活用

取り組みの流れ



1 | 看護記録用スマートフォンの導入

既存のシステム・機器を使用したため、初期費用0で運用を開始※2020年1月に試験導入したもの

- · 病室 全16部屋 **16台**
- ・ナースステーション **4台**

2 | 音声入力システムの仕様

- ・院内指定wi-fi下でのみ利用可能
- ・専用アプリをインストール OIDは各看護師ごとに割り当て
- ・アプリ上で記録・メモ等を音声入力 〇電子カルテに転送・反映
 - ○手入力・撮影画像の反映も可能
 - ○事前に作成した看護記録用のテンプレート等も使用可能

システム操作方法の再周知

試験導入時、音声入力システム自体はある程度周知されていたが手入力・画像撮影等についての認知度は低かった

濃厚接触による自宅待機職員も多く、それに伴いスタッフが不足し、研修時間の確保が難しい

夜勤帯や引き継ぎ前後など、手が空いたスタッフで 少しずつ情報を広げていった

3 | 音声入力システムの運用

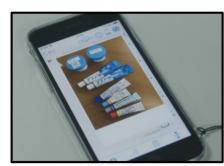
1) 病室内(レッドゾーン)での操作

- ①病室内設置のスマートフォンのアプリを起動
- ②QRコードを読み取りログイン ※各看護師の職員IDカードに記載
- ③病室内で看護情報を音声/手入力
 - ▶必要に応じて写真も撮影して添付(患者の皮膚状態など)
 - ▶事前に作成したテンプレートを使用し時間短縮をはかる
- ④ログオフ
- ⑤スマートフォンを置いて退出

2) ナースステーション(グリーンゾーン)での操作

- ①病室内での入力時と同じIDでログイン
- ②入力・撮影した看護情報が表示される
- ③パソコンとペアリング
- ④スワイプして転送
- ▶記録の細かな修正・加筆が必要な場合はパソコン上で入力





撮影機能の活用

- ・各端末から同じIDを使って写真を閲覧できる
 - ▶患者の状態(改善/悪化)変化に気付ける
- ・引き継ぎ時、グリーンゾーンで看護帳票、 メモを撮影
 - ▶レッドゾーンで患者情報を確認できる

N95マスクでの音声入力

- ・息苦しさで音声入力が負担
- ・音声認識が上手くいかず誤変換につながる



- ・一部手入力で代用
- ▶入力スピードが速い
- ▶誤変換が少ない

成果・効果

1|業務量の減少・削減

看護記録をスマートフォンで行う

- ・紙の看護帳票から電子カルテへの情報入力の 過程が削減
- ・パソコンに向かう時間が短縮
- ・確認のためのゾーン間往復が減少

○看護記録に費やす時間の削減

- ○口頭での申し送りを廃止
 - ・時間内に業務を完了できる
 - ・看護記録をスマートフォンからいつでも見ることができる

2 時間外業務の削減・有給休暇消化率の向上

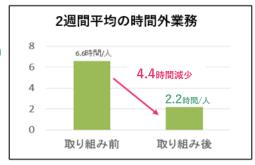
看護記録の電子化に伴う業務効率化により

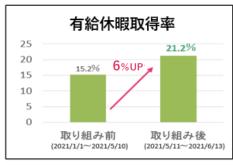
時間外業務 6.6時間 → **2.2**時間/人 に**減少** (※2週間平均)

▶業務時間内に適切なケアを行えるように

看護職員で協働し業務を遂行することで

有給休暇取得率 15.2% → 21.2%に上昇





3|費用の削減

看護記録の電子化

▶印刷物の削減

37,000枚 / 月 ▶ 24,000枚 / 月

ゾーン間の行き来の減少

▶PPE 着脱回数の減少・費用の削減

4 身体的・精神的負担の軽減

ゾーン間の**往来回数の減少**によって

- ・PPE着脱の身体的負担の軽減
- ・感染リスクの減少による精神的負担の軽減
- ・看護帳票を暗記する必要がなくなった

5 患者・家族への効果

スマートフォンからの指示簿閲覧が可能となり

・迅速な処置・投薬 ▶患者の安楽

アプリ内の撮影機能の活用によって

・患者の様子を撮影し家族にへ伝える**▶患者家族の現状理解・安心**

看護記録業務時間の削減によって

・患者への寄り添い**▶丁寧なケアの提供**

6|職務満足度や連携強化への効果

業務効率化によってクラスター下でも適切なケアを提供できる

・職務満足度が向上

クラスター下での業務効率化達成

・看護師間の連携・チーム力の向上





- 1 音声入力に限定しない多様なシステムの活用方法を院内に普及
- 2 デジタルデバイスの活用によるさらなるペーパーレス化の促進
- 3 業務効率化によって生み出した時間の有効活用

導入ポイント

- 1 ICT機器の導入に対する抵抗感に注意 ▶導入・活用方法の周知は入念に行う
- 2 │ 新たなシステム導入にはアプローチを広くとって普及しやすく ▶ 多職種・幅広い年齢層で導入推進
- 3 ランニングコスト・費用対効果を考える ▶初期費用がネックだが活用方法は多岐にわたる